

ホタル達の生息地が危ない！ - 西日本防災システム

ラムサール条約に登録された中池見湿地(福井県敦賀市)を通過する北陸新幹線のルート上に、国内最大級のヘイケボタルの生息地があることが9日、分かったそうです。建設や列車運行による生態系の破壊が懸念されています。政府の工事認可の前提となった評価(環境アセスメント)が行われた後、民家などを避けるために現ルートに変更されたことが原因のようです。専門家は「アセスメント制度の抜け穴を突かれた形だ」と指摘しているようです。調査によると、ルート周辺のヘイケボタルは10~11年に年平均で1590匹ほど確認され、全国36調査地点で最も多かったそうです。ホタル研究家のかたは「西日本ではかなり数を減らしているので極めて**貴重な場所だ**」と分析しています。湿地ではメダカや水草のミズトラノオなど、国指定の絶滅危惧種も確認されたそうです。北陸新幹線金沢~敦賀間は25年開業予定ですが、同湿地を含む区間の工事開始は決まっていません。環境省によると、建設事業者の鉄道建設・運輸施設整備支援機構は01年、湿地近くの山腹をトンネルで貫く建設計画の環境アセスメントを実施し、「地中を通るトンネルのため周囲への影響は少ない」と評価しました。国土交通省と環境省は着工前のより詳細な再調査を条件に了承したそうです。しかし、機構はアセス後の05年、集落や工場を避けるため、ルートを変更して国交省に工事実施計画の認可を申請。新たなルートは最大で約150メートル移動したため、山に挟まれた谷間で、約80メートルにわたりむき出しになるようです。線路は幅約10メートルのパイプを通す形で、湿地の真上を地表数センチの高さに設置されるそうです。この変更は、移動の幅が環境影響評価法施行令でアセスメントのやり直しが必要になる300メートル以上に該当しないとして、今年6月に認可されました。機構によると、むき出し部分の工事は湿地に重機を直接入れて行うといい、工法の面でも大きな変更になります。湿地を継続調査している環境省自然公園指導員のかたは「重機で一度破壊された環境は元には戻らない」と危惧しています。某大学の教授(陸水学)は「ルートが変わったら、アセスメントをやり直すことも検討すべきではないか」と指摘したようです。機構は「正規の手続きにのっとって進めている。着工は、環境省などが求めた再調査の結果を見て判断したい」としています。ですが、既にルートを詳細に確定する工程に着手。再調査を実施する機構は「この工程後にルートを変更した例は聞いたことがない」と説明しています。ということは **何も変更しない**。

そのままホタル達の生きる場所を壊してゆくなって事ですね！

私の偏った考え方ですか？ ご意見をお聞かせ下さい。 [こちら](#) ➡

情報はYAHOO NEWS



西日本防災システム

NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ ➡